

グループ 5

(新崎輝子、邨逸群、藤本佳代、深牧克哉、亀重靖彦、川田彩、丸山絢子、大西はるか、佐川正曜、馬場清士)

ポジティブな社会人

教育とは、いかに子どもの頃に誰もが抱く好奇心（様々なものへの関心欲、向上心）を
持ち続けるようにするのか、私たちのグループは、以上のような観点から「新しい教育の
ビジョン」を考察する。その上で、数ある教育の新たな可能性の中から、大学や大学院と
いう教育現場の「社会人入学」というスタイルに着目するに至った。まず、そこに到達す
るに至った経緯を簡単に説明する。

私たちが子どもの頃に抱く童心という純粋な知識欲、関心欲といったものは、学問に接
するうえで最も重要な要素であると同時に、それを常に維持し続けるということは、非常
に困難な事でもある。私たちが教育現場から離れた後、つまり、各レベルの学校を卒業し
て労働に従事する（社会へ出る）場合、そこでの人々の知識欲は、いかに経済的な価値を
産み出すかというものに重きを置かざるを得ない現状がある。しかし、そういった現象は、
様々なものへ関心を抱くという好奇心の本質を逸脱したものではないだろうか。また、そ
うした社会的要因・背景（非常に曖昧な言い方ではあるが、ここでの社会的要因・背景と
は、学校を出て社会人として経済的に自立する、つまり、一人の労働者として経済的な価
値をいかにして産み出すかということを企業が個人に対して求める、という意味）が、人々
に存在する関心欲の妨げとなっている、または、人々の社会進出が経済的知識を欲する
という関心欲の一元化を産む要因となっているのであれば、それをいかにして改善してゆくの
かが重要となってくる。そこで、一度社会へ出た人々にとっても、いかに好奇心を維持し
続けることができる環境が社会のなかに確保されている（人々の意識や社会システムも含
め）のかが必要となってくるのであり、以上のような「教育と人々の好奇心」という観点
から大学・大学院における社会人入学の可能性を「新しい教育のビジョン」として提案す
るに至った。

1,日本の現状

平成14年から16年まで文部省のデータによると、社会人特別選抜について、大学
の学部は増加傾向にあるが、一方で入学者数の割合が減少している。

実際に社会人入学者である A さんの話によると、社会人入学者数が少ないことから社
会人が学びやすい環境からはほど遠い現状にあるといえる。たとえば、学食で食事をし
ている時に「なんでこんなところにおやじがいるんだろう」という学生の視線を感じる。
ゼミ室に入ると重い空気を感じる。年齢のギャップによる壁を感じるというようなこと
だ。このような状況はせつかく大学に学びにきた社会人入学者にとって、ユネスコの教

育の四つの柱のひとつの「learning to live together」を実現できていないという点において、改善の余地がある。

安井美鈴「大学へのもう一つの道」によると、日本の成人期の教育に関して、従来から高等教育機関は主として高等学校から直接進学する者を受け入れており、成人に対する開放は必ずしも十分ではなかったということで、今後は生涯教育の観点から高等教育の機能をより積極的に成人に対して開放し、実生活を経験した者が必要に応じて大学などに入学できるようにすることが望まれる。

2、海外の現状

「生涯学習と社会参加」によると、国際的に見れば、スウェーデン・ドイツ・アメリカ・カナダ・オーストラリアなどでは正規コースの単位取得を目指す25歳以上の成人学生はパートタイム、スチューデントを含めれば、学生全体の30～60%に達しているという。

また、中国人留学生によると中国の大学では成人教育学院という日本の学部に似ているコースがあり、社会人が大学で学ぶことはとても一般的なことだと認識されているという。さらに、オーストラリアでの留学生によると、五十代・六十代の学生が当たり前前に学んでいる現実があり、若者の学生と違和感なく共に学ぶ環境が存在するという点で、先に述べたユネスコの柱を実現できている。

3、生涯学習の普及（社会人の大学進学に焦点を当てて）

①「生涯学習」の形

生涯学習・・・好奇心・知識欲・向上心を維持し続ける事が可能な教育形態

この中には、様々な形態が見られる。

例としては、通信教育もここに含まれる。

大学も、当然、この中に入る。

←しかし、大学は、日本における生涯学習において狭き門といえる。

→加えて、日本では、従来の既存の文化・慣習により年功序列などの観念が固定化されてしまった。

以上のような事が相まって、大学というものは社会人にとって非常に狭き門になっている。

→その、門の狭さを拡張するには・・・

↓

②生涯学習というものを如何に、普遍的なものとして広めていくか。

→大学から広げるには・・・具体的には??

- ・ 大学に入学せずとも、公開講座などを利用する。
- ・ 大学に入る事を熱望する社会人に対して・・・人々の意識改革から行うことが肝要。→学生の側：生涯学習の重要性を認識できるような教育を進める。→大学と、実社会の間の人材の移動を容易にする。

(②が達成された事が前提条件として)

③実社会における、個々人が受けた教育の成果が、正当に評価されるようになる。

→このような条件が整えば、生涯を通じて学び続ける事が可能になる。

→生き甲斐を、万人が生涯にわたって追求できるようになる。

また、それを追求することも可能となる。